

民主化闘争情報

No. 877
2013年4月9日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

貨物鉄産労の拡大が続いている。今年度に入って、4月1日付で関東地区本部で50才の主席が、また4月5日には西浜松駅で22才青年が続けて加入した。

関東で50才主席が 西浜松で22才青年が 貨物鉄産労加入続く!!

貨物鉄産労では日夜の組織拡大の取り組みにより、1月末に浜松地区3月には関西地区本部が加入を果たしたのは既報（民主化闘争情報875号）のとおりだが、今回は関東地区本部において50才「主席」が4月1日付で日貨労を脱退し貨物鉄産労に加入した。現場のリーダー仕事の要である主席が加入した意味は極めて大きい。さらに西浜松駅では営業フロントで働く22才の青年が加入した。まだまだ加入の動きは止まらない。

貨物会社働く仲間に JR連合・貨物鉄産労の取り組み浸透！

JR連合は産業政策を運動の重要な柱として取り組んでいる。とりわけ厳しい経営環境におかれているJR貨物の政策課題については貨物鉄産労が中心となり取り組んできた。具体的には①JR貨物が国鉄から継承した老朽化著しい構造物や鉄道車両に対する固定資産税の非課税措置いわゆる税制特例措置、②鉄道運輸機構・特例業務勘定の剰余金を活用した貨物輸送の輸送力増強や機能強化に向けたインフラ整備等への助成、③東日本大震災で発生した瓦礫の処理への対応などである。3月のダイヤ改正では国鉄改革時以来の懸案事項と言われてきた「吹田貨物ターミナル駅新設と百済駅改良」と「隅田川駅鉄道貨物輸送力増強事業」が今年春に完成した。特に隅田川駅鉄道貨物輸送力増強事業によって大半のホームが現在東北本線を走るコンテナ列車の主流である20両編成に対応するものに改良された。これにより「北の大動脈」と呼ばれる北海道・東北ルートへの輸送力は大幅に向上した。こうした貨物会社を支えようと貨物鉄産労が取り組んできた成果が、貨物職場で働く仲間にじわじわと広く浸透している結果が「主席」や「青年」の加入につながっている。

**貨物鉄産労では「新年度を飛躍の年にしよう！」
「貨物改革はJR連合・貨物鉄産労に加入することです」
と拡大行動を強化している**